

事業番号	275
------	-----

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	《公園緑地施設整備事業》						担当部	都市建設部					
	会計区分	一般会計			事業類型	施設整備系		担当課	みどり公園課					
	事業期間	平成12年度以前			～		平成30年度以降		担当係	公園整備係				
	総合計画 分野別計画	主目的	5 都市基盤		27 公園・緑地・緑道		4 市民と協働による公園・緑地・緑道の整備と管理を進める							
		副目的	27-3,5											
	予算区分	款	8		項	4		目	5		大	3		中
	根拠法令・個別計画	小牧市緑の基本計画、小牧市都市計画マスタープラン												
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	100 %		委託	0 %		助成	0 %					
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	公園の適正配置に努めるとともに、緑の保全・創出、自然にふれあえる公園を整備改修し、市民に憩いの場を提供する。												
	内容 (手段)	<p>実施設計に先立ち、整備予定の各公園ごとに地域市民参加によるワークショップを開催し、地域のニーズを反映した公園整備を行う。 職員は、工事等の設計、施工に関する監理を実施している。 平成21年度は、北外山中央公園のワークショップを開催した。 平成22年度は、岩崎原中央公園の用地調査を行った。 平成23年度は、三ッ淵南公園公園の用地調査など基礎調査を行い、H25から実施予定の住民参加による公園づくりワークショップ開催に向けた準備を行った。また、岩崎原中央公園公園、三ッ淵南公園の都市計画決定を行うための資料作成や地元説明を行った。</p> <p>【H23直接経費内訳】 工事費 47,396 委託費 13,605 役務費 23</p> <p>平成24年度は、南外山公園、岩崎原中央公園の実施設計、ワークショップ開催、北外山中央公園の整備工事等を予定。</p>												
受益者負担	無													

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	76,991	13,144	61,024	251,547	
		正職員	従事者数	人	1.00	0.70	0.70	0.90
			人件費	千円	5,319	3,723	3,723	4,787
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	82,310	16,867	64,747	256,334	
	対前年比	%			20.4	383.8	395.9	
財源	一般財源	千円	70,610	16,867	64,747	169,713		
	国・県支出金	千円	11,700	0	0	51,200		
	その他財源	千円	0	0	0	35,421		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	整備箇所		箇所	目標	1	—	—
実績				1	—	—	
用地調査箇所		箇所	目標	—	1	1	—
			実績	—	1	1	
			目標				
			実績				
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	都市公園の箇所数 (緑地・緑道を含む)	箇所	目標	102	103	103	104
実績			103	103	103		
			目標				
			実績				

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	H23は、三ッ瀨南公園の用地調査などの基礎調査など、公園整備に向けて、計画どおり事務を進めることができた。 また、岩崎原中央公園公園、三ッ瀨南公園の都市計画決定を行うための資料作成や地元説明をおこなった。	
		事業実施における課題等	ワークショップの運営をコンサルタントに業務委託し実施しているが、計画を皆で作りに上げるワークショップではなく、要望・要求活動の場になってしまうケースが発生している。	
		事業を縮小・廃止したときの影響	市内の公園の適正配置を行えず、緑の保全・創出、自然にふれあえる公園を整備改修し、市民に憩の場を提供することが出来なくなる。	
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持		
	判定理由	市内の公園の適正配置を進めるため、今後も緑の基本計画に基づき公園等の整備が必要であるため。 公園は災害時における一時的な避難場所や子供の安全な遊び場所の確保、地域コミュニティの活性化等、多目的な利用をするため、ワークショップを実施することにより、ニーズを反映しながら、安価となる工法や同等製品を提示するなど、整備コストの節減をはかり公園づくりを実施することが出来る。		
	改善案等	ワークショップの司会進行を協働コーディネーターが行うことで、専門家と市民、行政と市民の間などにおいて対等性を確保し、参加満足度の高い合意形成が行え、地域住民が利用しやすく、市民参加による管理がしやすい計画とする。		

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。